

“おばちゃんち”は、 学びあい、育ちあいの場

NPO 法人 ふれあいの家—おばちゃんち



高層ビルの立ち並び品川駅から10分余り歩くと、懐かしい風情の商店街が現れる。旧東海道品川宿は、江戸から出る街道のうち、最も重要視された東海道の一番目の宿であり、今も江戸時代と同じ道幅で宿場まちの面影を残している。

目指すは、ふれあいの家—おばちゃんち（以下、おばちゃんち）。「世代を超えたふれあい」が繰り広げられる身近な場所、互いに支えあい共に育ちあつて暮らす、そんな「まち」をめざしているNPO法人である。

場所なし、でスタートした活動

「場所」について？ 実は、おばちゃんちはどこにもないのよ。ここは、品川区と協働で運営している「あずかり広場」なの。代表理事の渡辺美恵子さんは開口一番、言った。市民活動を始めたい、そのための拠点がほしいと相談に来る人には「場所なんてなくても活動はできる」と伝えている。

「場所の管理人になってはいけない」。渡辺さんが児童館職員だったころ、そう諭してくれた上司がいた。

「とくに施設がきれいになると、職員の仕事が施設を管理することになってしまふし、いろいろ制限すること子ども世界を狭くしてしまふ」。大切なのは場所でなく、活動。それを踏まえていれば、場所に振り回されることはないということだろ

う。おばちゃんちは、生まれ育った品川で子育て支援をしたいと考えた渡辺さんが、友人に声をかけたのが始

まり。最初は拠点を持たず、公共施設を借りたり、渡辺さんの自宅で活動していた。職場のある中野区の友人や、講座などで知り合った地元の人たち呼びかけ、8人が集まった。その後、セミナーを主催して同志を募っていく。

NPO法人を設立後、品川ボランティアセンターの登録団体となり、印刷機やロッカー、活動室が使えるようになった。年に一度のボランティア登録団体連絡会で、他団体とのつながりもできる。ボランティアセンターの呼びかけでホットサロン事業に関わり、ママたちが運営する「子育て仲間*はらっぱ」と協働して週2日運営した。こうしておばちゃんちの活動は地域に根づいていった。

あずかり広場という場所を 設けたわけ

場所なしで活動してきたおばちゃんちが、あずかり広場を設けた理由をうかがった。

品川区は、従来の保育施設では対応できないニーズに答えたり、子育



品川宿おばちゃんちは、呉服屋を改装した風情と温かみを感じる外観。お祭りを控え、通りにはちょうちんも飾ってあった。

て支援のネットワークを構築する場を模索していた。また、空き店舗の解消やまちの活性化をめざして、NPO法人東海道品川宿が活動を開始、飲食店3店をオープンしたあと、まちづくりのために子育ての拠点がほしいと考えていた。区（まちづくり振興課・保育課）とまち（東海道品川宿）の要望が一致して、おばちゃんちに声がかかり「あずかり広場品川宿おばちゃんち」が誕生する。

都と区が空き店舗対策事業として家賃と改築費の3分の2を補助し、残りの3分の1はおばちゃんちが負担する。保育の利用料などをもとに初期投資費用は6年で完済。本来なら3年で打ち切られる助成金は実績が評価され、引き続き区が補助してくれることになった。けれども、ここまでは決して順調な道のりではなく、行政の下請けにならないこと、助成がなくても活動できるようにしておくこと、活動の趣旨からずれないことなどを意識しながら、何度も話し合いを重ねた結果だと渡辺さんは言う。

預かり広場は、こじんまりしている。渡辺さんは「小規模だからこそ、きめ細やかな対応ができる」と言う。急な利用でも短時間でも、子



あずかり広場。理由は問われずに安心して子どもを預けられる。家の裏には駐車場に土を盛った畑がある。

どもを預かる。パソコンはなく、電話とファックスだけ。保育料も指を折って計算する。あえてアナログ、アンチ・システムチックにすることで、温かさを感じてもらいたい、とスタッフは思っている。

おばちゃんちでは、どの事業でも月に1回、職員会議を開き、じっくり話し合う。「たとえば、お母さんが清潔でない哺乳びんを持ってきたとします。母親失格と思っただけ。お母さんを受け入れ、どう注意する



渡辺美恵子さん。みながあだ名で呼び合うおばちゃんちでは、彼女は「みこちゃん」と呼ばれている。

『品川に100人のおばちゃん見~つけ!』 —みんなで子育てまちづくり』

丹羽洋子著 ひとなる書房

おばちゃんちで人びとが出会い、つながり、暮らしが変わり、温かいまちづくりをする姿がいきいきと描かれている。

四六判 / 228 ページ / 定価 1,575 円 (税込)
ISBN978-4-89464-120-4



NPO法人 ふれあいの家—おばちゃんち

〒140-0001 品川区北品川2-28-19
TEL / FAX : 03-3471-8610
e-mail : fureai@obachanchi.org
URL : <http://obachanchi.org/>

か、もしくは気づいてもらうか、それにどのくらいの時間をかけるかなどを共有します。保育園では忙しくて十分に子どもをみることができなかったと悩んできた保育士たちが、ここではきちんと向き合おうと実践しています。それは、子どもの家族とも向き合うということでもありません」

おばちゃんちは、面倒くさいが、ゆるくつながる『場』

正直なところ、おばちゃんちを運

営するのは面倒くさいのでは？ 渡辺さんは間髪入れず答える。「そこがおもしろいのよ!」

「あえて面倒なことをするのが、コミュニティの復活につながると思っけています。面倒を省いたために起きてしまった問題は少なくない。子どもに面づくさを体験できなかつた人たちが今、親になってる。おばちゃんちは、大人が育つための大切な『場』でもあるのです」

おばちゃんちでもっとも大切にしてる事業は、まなびあい広場。学ぼうちにやりたいことが見つかる

と、スタッフはその背中を押す。品川子育てメッセや、品川の情報誌『SKIP』、区の子育てポータルサイト「てとととねっと」は、まなびあい広場の受講者が中心になって立ち上げたものだ。あずかり広場を利用していた母親が、保育サポーター養成講座を受講してスタッフになることもある。「お母さんたちには、子育て力をつけ、自分の足で立つてほしい。やってあげるんじゃなくて、彼女たちができるようにするのが、私たちのめざすこと。おばちゃんちは、ゆるくつながりながら、そんな

人たちが集う『場』でありたい」

これからのおばちゃんちについて、渡辺さんに聞いてみた。

「これまで自分たちの活動に一杯で、市民活動を始めたいと思う人たちが容易に立ち上げられる環境をつくるのができなかった。これらの10年で、それをつくるのが私たちの仕事だと思えます。めざすは『1000人のおばちゃん』。支えあい、学びあい、育ちあいながら、まちをつくる、そんな人びとを増やしたいのです」

文 / 秋池智子 写真 / 朝比奈奈ゆり